

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】	
事業所番号	1591000060
法人名	社会福祉法人十日町福祉会
事業所名	グループホームどした(2ユニット共通)
所在地	新潟県十日町市南鏡坂446番地1
自己評価作成日	令和6年8月9日
	評価結果市町村受理日
※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)	
基本情報リンク先 <a href="http://www.kaitokensaku.niigata.go.jp/15/index.php?action_kodryou_detail_2017_022&amp;ani=trusaku1gysyoc&amp;=1591000060-00&amp;prct=1591Ver1inf&amp;id=27">http://www.kaitokensaku.niigata.go.jp/15/index.php?action_kodryou_detail_2017_022&amp;ani=trusaku1gysyoc&amp;=1591000060-00&amp;prct=1591Ver1inf&amp;id=27</a>	
【評価機関概要(評価機関記入)】	
評価機関名	公益社団法人新潟県介護福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2-2-2
訪問調査日	令和6年9月25日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピりたい点(事業所記入)】

事業所の内外から眺められる田畑や山々は景観も良く入居者・ご家族からも好評で施設内ではインコの飼育を行い、お客様を出迎えてくれます。

コロナウイルス感染症の影響で、地域交流がなかなかできませんでしたが、近隣の小学校へのあいさつ運動をきっかけとして、運動会やマラソン大会の応援、施設納涼会の再開や慰問ボランティアの来園の再開をしました。近隣の皆様からのご厚意により、自宅で収穫された野菜を頂いたりしながら、旬の野菜を調理して提供しています。自然豊かなよした鏡坂地域の一員とされるよう交流活動を行っています。

ユニットでは個別ケアを推進し24サイトを活用入居者の想いに沿った生活が実現できるよう対応心がけています。居室内にはもともと自宅で使用していた家具などを持参していただくことで、入居前に行っていた日課などが継続してお行えるよう支援しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○地域との繋がりとその人らしい生活への支援

事業所は市内の高台に位置し【地域密着型特養】、【短期入所】、【通所介護】の複合型介護施設の中にグループホームとして開設された。玄関を入ると早速「オカメインコ」が登んだ鳴き声で出迎えてくれる。事業所前には小学校と交番、住宅地、少し離れて保育園と言う恵まれた地域環境の吉田地区の中心地に位置している。食事も農家の方が届けてくれる新鮮な野菜が日々の食卓を彩り、今年はコロナ禍で止まっていた地域交流が小学生への挨拶運動をきっかけに運動会やマラソン大会の応援、訪問ボランティアも受け入れることが出来た。また、感染防止に努めながら4年ぶりに納涼祭を開催し、地域の方を招き、家族と共に楽しむことが出来た。職員間で念入りに協議し、利用者家族の協力を得ながらの開催であった。また、法人理念の「一人一人を大切にしたい生活への支援」を重点的取り組みとして、「利用者の把握や迅速な対応。利用者への意向のくみ取り。望む生活の提供。1の3つの項目を挙げ、ユニット入り口に掲示し職員への意識付けに努めている。事業所は、これまで出来なかつた地域交流の推進など、地域と共に考え、地域の一員として安心して生活が出来る環境作りに動き出しているのである。

#### ○複合施設の強みを生かした支援の取り組み

窓からは広々とした自然とともに、地元の方達の農作業する様子や、目の前の小学校生徒たちの活動が良く見える。もちろん事業所内は清潔に整えられており、季節の植物や置物、展示物、ひとやすみコーナー等、利用者が利用しやすい工夫が随所にみられ、利用者にとって居心地の良いものとなっていることが感じられる。また、細やかに配慮された食に関する取り組みは複合施設の強みを生かした専門職からのアドバイスを受けながらできるだけ手作りで、季節の「食」を利用者も参加しながら楽しんでいく。

# 自己評価および外部評価結果

自己評価		外部評価	
外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>事業会議などの会議録へ理念が記載されたり、ユニット内で職員が見やすいところへ掲示し理念の共有を行っている。</p>	<p>法人で統一した理念が作成され、それを基に事業所として重点的に取り組むべき目標が掲げられている。迅速な利用者支援や個別処遇、地域交流を含む項目が事業所の理念として、各ユニット入り口廊下に掲示されている。毎年度末、理念について話し合いや振り返りを行い達成度を確認している。管理者と職員は地域密着型サービスの役割や意義を考え、日々のケアに繋げている。</p>
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>近隣の鐘島小学校へのあいさつ運動や運動会、マラソン大会の応援を通じて交流をしている。また施設納涼会や慰問ボランティアの受け入れも再開している。入居者の住んでいた地域へ出掛けなごみだつたところで散髪をしたりしている</p>	<p>今年度は近隣の小学校生へ向け、挨拶運動に力を入れている。登下校時の声かけなど役割を持ち交流を深めている。また4年ぶりに納涼会を行い、賑やかな雰囲気の中で楽しく地域交流が出来た。高齢事業所より招待を受け、出かける楽しみも増えている。体験学習の場として地域の中学生の受け入れや訪問ボランティアの受け入れなど、コロナ禍以後止まっていた地域交流を少しずつ再開、以前の日常に戻ることが職員は期待し支援に努めている。</p>
3	○事業所の方を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>施設内研修で認知症研修を毎年行っている。また看護実習生の受け入れも随時行い、認知症の理解を説明し実習をしてもらっている</p>	

次のステップに向けて期待したい内容

自己評価	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
自己 外部 (3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催をしている。事業の報告、サービスへの相談をおこない、助言や要望をいただいている。伺ったご意見等サービスの向上に繋げている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催され、特養、通所、グループホームの3事業所合同で開催している。自治会長、民生委員、家族、包括支援センターの職員等と各事業代表の職員で構成され、事業報告や目標達成に向けた具体的な取り組みの報告等、事業に対し理解を得ている。会議報告は参加者に配布されているが、参加してこない家族への報告は行っていない。今どこ利用者への参加はなしているなど、運営推進会議が有意義な会議となるよう検討している。	運営推進会議で参加者以外の家族の意見を聞く機会を設けることが課題として上げられ、目標達成に向けた取り組みは思われるが未だ達成されていらない状況である。再度地域密着事業所の本来求められなかった家族の意見や要望を聞いて行くことが求められる。事業所の課題が家族や地域住民と共有出来るよう、会議の場が単なる報告の場とならないよう事業所の取り組みに期待したい。
5 (4) ○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での報告内容に対し、地域包括支援センター職員からの意見、アドバイザーをいただいている。不明な点は市の担当者へ連絡している	運営推進会議の際に包括支援センターの職員より意見やアドバイザーを受けている。利用者への支援や入退所に関する困り事への相談は無かったが、骨折、誤嚥について相談や報告を行い利用者が支援に活かしている。困り事については随時気軽に電話連絡が出来る関係にあり、事業所の実情を伝えながら協力関係を築いている。	
6 (5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内研修の他に毎月のユニット会議を利用し、不適切ケアについて話し合い、事例検討を行っている。事業会議内で他事業の事例も共有をしている。毎年1回ストレスチェックを行っている	法人研修に参加し身体拘束について学んでいる。毎月会議の場にて「ミニ検討会」と題して不適切な事例を基に検討を通し、日々のケアに活かしている。利用者18名中、センサー等使用の方は9名おられるが、定期的な記録や必要性の確認、家族への連絡など、会議の場での検討は行っていない状況であるが、今後は必要書類を整理し取り組んで行く予定である。	

自己評価	外部評価	外部評価		
		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7	(5-2) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修に参加している。参加できなかった職員には、ユニット会議等で復命を行い周知している	法人研修や毎月のユニット会議にて虐待(不適切ケア)について学び、事例検討会を通して虐待防止に努めている。不適切な場合もあり、直接管理者に報告を行い、虐待に及ぶ前に防ぐよう努めている。毎年ストレスチェックを行い、ストレス度の高い職員は産業医との相談体制をや改善に向けた処置が整えられており、虐待に及ぶ環境が見過ごされない体制作りを努めている。	
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の説明を行っている。不明な点に関してはその都度、説明をし同意を頂いている。法改正時には文書や必要時に口頭での説明を行い同意をした抱いている		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付相談窓口の設置、受付担当者、責任者の説明を契約時に行っている。いただいたご意見等については、施設長、係長と共に情報を共有し、当該職員や担当者へ説明を行い解決を目指している	家族より事業所への要望は気軽に相談出来るように心がけているが等がたつてくる件数は少ない状況である。毎月のお便りは、家族向けに分かりやすさを念頭に作成している。出された意見は運営推進会議やユニット会議にて報告を行い、職員間で話し合い事業運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の関わりの中やユニット会議、人事考課面接の機会を設けた際に確認をしている。ユニット会議や事業会議で報告、検討を行っている	人事考課時の面接やユニット会議時は職員からの意見や提案を聞く機会として捉えている。職員より異動に関する意見は定期的なものとして受けることが多く、自由に意見が言える雰囲気作りにも努めている。勤務に関する意見など管理者は職員の意見に耳を傾け、提案を受け事業に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の定める就業規則や給与規定に基づいて運営している。人事考課制度を活用し個人目標を掲げやりがいをもって働けるようにしている。人事考課対象者以外には施設独自で個々に目標を立ててもらい取り組んでもらっている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT、OFFJITへ計画的に参加している。また人事考課や移動してきた職員へは配属事業所研修の遂行、新人職員へは100日プログラムを用いて人材の育成を行っている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新潟県認知症高齢者グループホーム協議会に加盟している。研修会を通じて他施設の職員と交流する機会がある。また3ヶ月に1回法人内グループホームと連絡を取り合い、協議検討を行っている。			
<b>Ⅱ安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	入居前のご本人への面会を通じて情報収集を行い、事前説明や見学してもらった上で話を聞き、不明、不安な点がないか確認をしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のご本人への面会を通じて情報収集を行い、事前説明や見学をしてもらった上で話を聞き、不明、不安な点がないか確認をしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族、担当の居宅介護支援事業所からの情報を基に、どこに困り事があるかを見極めるよう努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のできること得意なことを大切に役割をもって生活ができるよう心掛けている。また、入居者同士の関係づくりにおいても、必要時には職員が間に入ることでのなじみの関係が築けるよう、食事席にも配慮している			
19	(7-2)	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支えられる一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限り、定期受診や日用品の準備をお願いし、ご本人との関りが継続されるよう働きかけている。日々の様子がわかるよう毎月の手紙や必要時の電話、面会に来た際に様子をお伝えしている。	医療機関の受診については事業所作成の主治医連絡票を活用し、家族の協力を得ている。遠方や家族が高齢の方については、地域医療の訪問診療で対応している。事業所の基本姿勢は事業所、利用者にとつて家族の支えは大切なものとして捉えており、繋がりを絶やさぬよう、在宅時のかかりつけ医を継続としていく。お出掛けや面会については協力をもらい、本人と共に支え合う家族との関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのかかりつけ医の継続や開けがあった理美容店での散髪にも出かけてるよう努めている。	かかりつけ医は多くは変更はせずに本人、家族の信頼している医療を繋いでいる。今年度は馴染みの所へのドライブや、理容院で散髪、また受診の帰りは自宅に立ち寄るなど、家族との時間が持てるよう対応している。面会は今年度より居室での対応が可能となっている。利用者の気持ち大切に、馴染みの人や場所が途切れないよう支援に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係づくりにおいて一人ひとりの性格や関係性に 応じ、食事席に配慮している。必要時には職員が間に 入ることなどなじみの関係が築けるよう努 めている。			
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じてご家族から の相談や他事業所、医療機関への情報 提供を行うよう努めている。			
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日々の生活の様子や日課を会話の中 から聞き取りを行っている。聞き取りが 困難な方へは事前にご家族や居宅ケア マネージャーからの情報を基に思いを汲み取る よう努めている	入所前に予め施設見学希望の方は実際の 生活の様子を見てもらい、本人の思いや家 族の意向を確認している。在宅時の担当ケア マネージャーからも情報をもらい、新しい生 活への不安や不満が軽減されるよう暮らし方 の希望を丁寧に聞き取り、意向の把握に努 めている。		
24	(9-2) ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	ご本人やご家族、担当の居宅介護支援 事業所、利用サービス事業所からの情 報を基に、どこに困り事があるかを見極 めるよう努めている	これまで担当していたケアマネージャーより 生活の様子を聞いたり、入所時に得る家族 からの情報や、入所後も日々の暮らしの中か ら得られた情報を職員間で共有し、これまで の生活の延長線上にあるように支援に活か している。楽しみを持ちながらの野菜作りな ど、これまでの暮らし方が継続出来るよう努 めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	24Hシートを作成。定期的な見直しを行 い、できること、サポートが必要な事を把 握している。職員間で情報を共有するた め24Hシートの更新は居室担当者がお こなっている			

自己評価	外部評価			
	実践状況	実践状況		
項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26 外部 (10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人やご家族の意向を確認し、ユニット会議で課題や支援方法について意見交換をして現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>入所前の本人・家族との面接等の中で、在宅での生活や希望を伺い、確認しあいながら、利用者が望む生活が継続出来るよう、利用者の言葉を具体的に表したり確認したりしながら介護計画を作成しカンファレンスを行っている。</p>	
27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>24Hシートに沿った記録を個別に行っている。職員間で情報が共有できるように送り受の活用なども行っている</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>その時のニーズに合わせて対応ができるよう、職員の休憩時間をずらしたりしながら、柔軟な対応ができるよう努めている</p>		
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の神輿や施設行事を通じて施設内に来てもらう関わりを持つ以外に、近隣他施設への慰問ボラ見学や近隣小学校へのあいさつ運動、家庭菜園などの取り組みを行いながらできることが継続できるように努めている</p>		
30 (11)	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前のかかりつけ医との受診が継続して行えるようにしている。希望があれば主治医の変更や訪問診療への切り替えなどの支援を行っている。受診についてはご家族の対応を基本とし、主治医連絡票やうおぬま米ネットを通じて主治医への報告を行っている</p>	<p>本人・家族の希望で、在宅時のかかりつけ医への受診を継続しながら、変更希望者には、その都度対応している。受診時は主治医連絡票や「うおぬま米ネット」を活用するなど、主治医や医療関係者連携がスムーズに行われている。また、複合施設のリフトとして、同敷地特養の看護職員や管理栄養士が定期的に来所し、看護の相談や必要な支援についてのアドバイスを受けることができる。</p>	



自己評価	外部評価	項目	
		自己評価 実践状況	外部評価
31		<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週/1回の医療連携を施設内看護職員と行っている。夜間は施設内の看護職員とのオンコール対応もあるが、緊急時のドクターメイトのオンコールを活用しアドバイスが受けられる体制をとっている</p>
32		<p>○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には必要な情報を医療機関へ提供し、院内の患者サポートセンターと連絡を取り合っている。退院時の看護サマリなどは、うおぬま米ねつとを通じ、退院前に事前に情報が得られるようにしている</p>
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時にご家族への説明を行っている。状態が低下していく上で、ご家族の意向や主治医、多職種と連携を図り、特養の申請など必要な手続きを行っていくよう努めている</p>
34	(12-2)	<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>法人研修や施設内研修を通じて参加できなかつた職員へは復命を行っている。急変時のマニュアルの整備を行い、マニュアル、フローチャートに沿った対応ができるよう努めている</p>
			<p>「急性期における医療連携体制」や「看取りに関する指針」などを含む「重度化・終末期対応指針」などを管理者・計画作成者が入所時に事業所が出来る対応及び受け入れ態勢について家族等に説明し、同意を得ている。法人では昨年12月にターミナルケア職員研修が行われ事業所職員も参加している。</p>
			<p>まだコロナ禍でもあり、研修はほとんど動画視聴で行われている。急変者確認時の報告マニュアルや誤嚥事故防止研修が行われているが、それぞれの継りがそれぞれで作成しているなので、そのマニュアルを全職員が確認し難い現状が見られた。今後はいつでも誰でも簡単に確認出来るよう整理されることが望まれる。</p>

自己評価	自己評価 実践状況	実践状況	外部評価
項目			次のステップに向けて期待したい内容
35 外部 (13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年/2回の避難訓練を行い非常時に備えている。防災機器の取り扱いや消火訓練も実施し、地域の駆けつけ人などの協力体制もできている	急変時や災害発生時のマニュアルが作成され、地域の方々との協力体制も出来ている。しかしながら、地震や火事・暴風雨など予測が難しい状態での発生が予想される。非常時には誰でも簡単に持ち出せるように常に整備された形が望まれる。	地震や火事・暴風雨等、予測が難しい状態での災害発生が見られる現在、災害時の職員持ち出し備品(利用者名簿・必要書類・家族連絡簿等々)が整備される必要がある。職員が利用者の安全確保を把握し、持ち出した訓練場所の検討や、昼夜分けた訓練実施など全職員が身につけることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36 (14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月のユニット会議を利用し、不適切ケアについて話し合い、事例検討を行っている。事業会議内で他事業の事例も共有し、各ユニットへも回覧をおこない共有している	事業所ではプライバシー保護に関して、不適切ケアの研修の中で、学びあいながら事例を通じて共有しており、それらの学びの資料はある。今後は「プライバシー保護に関するマニュアル」を作成するなど、職員が何時でも確認出来る体制づくりが望まれる。	
37 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で思いを汲み取り対応するよう努めている。会話の中で「○○しましょう」と声を掛けるのではなく「○○しませんか？」などの意思決定ができるような声掛けを意識している		
38 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の流れや活動については声掛けを行っているが、意向を確認して柔軟に対応、その人の時間で対応ができるよう努めている		
39 ○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	意向の確認しながら、髪留めのピンや衣類の準備をしている		

自己 外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40 (15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みの把握をしながら献立を立てている。季節の食材を使用し季節を感じてもらえるよう工夫している。枝豆もぎや皮むき、食器洗い、配膳、盛り付けなど一緒にやっている	2つのユニットでは食事献立もそれぞれが違い、買い物から食事づくり迄、工夫しながら、楽しみながら、職員と共に出来ることを一緒にやっており、利用者からも好評を得ている。旬の食材や季節の物を取り入れるようにしながら、イベント計画時のお楽しみ食事・玄關先でさんまを焼く・はざかけごはんでおにぎり等々、利用者全員で食べることが楽しめるよう工夫しながら支援している。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べられる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容や形態、食事量に配慮し、体重の増減にも注視している。夏場は特に水分量を意識しながらイオンドリンクなどを飲んでもらうようにしている。自施設内栄養士から献立についてのアドバイスをもらっている		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合わせて口腔ケアを行っている。必要時には職員が手伝っている		
43 (16)	○排便の自立支援 排便の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排便のパターン、習慣を活かして、トイレでの排便や排便の自立にむけた支援を行っている	支援が必要な方へは排泄子エツク表を活用し、排泄パターンの把握を行い、ここに合わせ声掛けや対応をしている	排泄子エツク表を活用し、排せつパターンの把握を行っている。各自の居室にもトイレがあり、所どころにも共有のトイレがあり一人ひとりに合わせた対応が行われている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の排便状況の把握を行い、主治医や看護職員、ご本人と相談し、下剤の調整を適宜行っている。食事面でも繊維質の多いものや乳製品、水分を多く摂取してもらえるようにしている		

自己評価	外部評価	項目			
		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況		
45	(17)	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴日は決めていない。その都度声掛けをさせてもらい入浴している。週2回を基本としているが希望に合わせて柔軟に対応をしている</p>	<p>入浴はおおよそ週2回を基本としてゆつくり入れるような形になっており、チエアー浴とまたいでの入浴が約半分づつ利用されている。利用者の安全のために洗剤や漂白剤などは、保管置き場所の配慮のために可愛いカーテン設置されているが、なお一層の安全確保が望まれる。</p>	<p>次のステップに向けて期待したい内容</p>
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休憩したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>いつでも希望に合わせて休めるようになってきている。就寝時間も個々によって違うため、眠くなったり、意向が聞かれた際に就寝をしてもらっている</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の説明書は個人ファイルにて最新のもの进行管理し、閲覧できるようにしている。内服時に薬の内容と錠数が確認できるようにしている。変更があった場合には、その都度変更している</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>毎日の楽しみや役割をもって生活ができるよう支援している。洗濯干しや洗濯量、軽体操や家事活動、小学校へのいさつ運動、野菜の収穫をしている</p>		
49	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>気分転換だけでなく、関わりのある理美容店への外出や、ご家族から要望に合わせての外出などを行っている。季節ごとくにドライブに出かけることもある</p>	<p>コロナ禍の中で以前よりは少なくなつたが、最近では「いつてらっしゃい！」「おかえりなさい」の「あいさつ運動」を再開中である。目の前の小学校生徒さんへの声掛けやマラソン大会時での「がんばれー」の声掛けなどが漸く復活してきている。受診の帰りにお墓参りをしたり、また、まもなく紅葉を観に行く計画もあり、利用者は大変楽しみにしている。</p>	

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望やカにに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大金に関しては金庫での管理を行っているが、小銭程度は個人で管理している方もいる。主に外出時など、職員の見守りで使用をしている			
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望時に電話をかけたり、電話があった際には取りつきを行っている。個人携帯を持っていて、ご家族からかけてきた時のみ使用する方もいる。携帯の紛失の可能性が高い人は職員側で管理させてもらっている			
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い、清潔保持に努めている。室温や湿度、照明などに配慮している。リビングには季節の花などを飾るようにしている	窓からは、畑や田んぼ、整備された道々、くつきりとそびえる山々が見え、事業所内には明るく清潔に清掃されており、所どころに花や種物が飾られている。少しずつ違う形でぼんぼりや飾り物が導き、座ってお話しする場所があったり、楽しみながらそれぞれの居室へ導かれるような工夫がされている。		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人同士で談笑したり、テレビを見たりと、自由に過ごせるようになってきている。			
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや大切にしている物や家具を持ち込んでいただき、思い思いに過ごしやすい空間づくりに努めている。各居室内にトイレがあるが必要な所にはプラスチックスクワグローブやビニール袋などを入居者の目に触れにくいように設置している	明るく清潔な住み心地良い居室づくりへの配慮がなされている。各居室にはトイレ・洗面所があり、例えば車椅子になられたとしても、トイレの大きいく開くドアは出入りがスムーズで使いやすいと感じられる。また、自宅に居られたとき使用されていた家具や仏壇などを居室に置き毎日の生活に使いながら、居心地良さをうに過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部分は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースは安全に配慮し、キッチンや物干しスペースは入居者にも使いやすいよう配置を心がけている			

V. サービスの成果に関する項目(アクトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	項目	1 該当するものに○印	1 該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけたい (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない